5　試験結果の記載方法

４で求めた結果は、次の式で計算する。

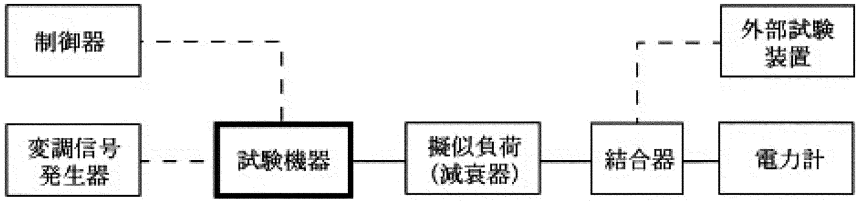
⑴　上側隣接チャネル漏えい電力比　10log（P_U／P_c）

⑵　下側隣接チャネル漏えい電力比　10log（P_L／P_c）

相対値で記載する場合は、⑴及び⑵で算出した値をdBc単位で記載する。絶対値で記載する場合は、あらかじめ測定した空中線電力の測定値に⑴及び⑵の式を用いて算出しdBm単位で記載する。

八　空中線電力の偏差

1　測定系統図



2　測定器の条件等

⑴　電力計の型式は、熱電対、サーミスタ等による熱電変換型又はこれらと同等の性能を有するものとする。

⑵　減衰器の減衰量は、電力計に最適動作入力レベルを与えるものとする。

3　試験機器の状態

⑴　試験周波数に設定し、送信する。

⑵　キー操作、制御器又は外部試験装置により最大電力に設定する。

4　測定操作手順

⑴　電力計の零点調整を行う。

⑵　送信する。

⑶　電力計で測定する。

5　試験結果の記載方法

結果は、空中線電力の絶対値をW単位で、定格の空中線電力に対する偏差を百分率単位で、＋又は－の符号を付けて記載する。

九　搬送波を送信していないときの電力

1　測定系統図

